

アジア最大級の福祉・介護機器の展示会「第45回国際福祉機器展」(主催||全国社会福祉協議会、保健福祉広報協会)が10月12日、東京・有明の東京ビッグサイトで開催され、約600の企業・団体が最新の製品をアピールした。日産、トヨタなどの自動車メーカーは福祉車両を出展し、車いす利用者と家族、施設関係者から注目された。

日産は車いす仕様の「セレナーPOWER R」などを展示。会場で



日産のコーナーでは、車いす仕様「セレナーPOWER」などが登場。多くの来場者がスタッフに質問をぶつけていた(10日、東京・有明)

国際福祉機器展

日産、トヨタら 車いす仕様PR

案内役を務めたグループのオーテックジャパンの古川いずみ広報&デジタルマーケティング部主担は、セレナのタクシーへの活用の利点を「車いす利用者、健常者を問わず、快適に乗車できる。3列目シートの折り畳みやスロープの出し入れも短時間で可能。車高を調整する機能などで女性や高齢のドライバーも乗車をサポートしやすい」と説明した。

車いす・ストレッチャーのまま乗り降りできるトヨタ「ハイエース」、車いす仕様のトヨタ「シエンタ」、助手席回転シートの日産「ノートe-POWER」、ホンダ「ステップワゴン」などが出展され、大勢の来場者が係員に構造を尋ねたり、車いすの乗降を体験したりしていた。

トヨタの「JAPAN タクシー(JPN TAXI)」は昨年登場したが、今回はなかった。